

放牧とフリーストールを組み合わせて労働生産性を向上



フリーストール牛舎

背景

北海道は省力的で低コストな飼養管理技術として放牧の普及を推進しているが、主流である繋ぎ飼養方式では省力化に限界がある。

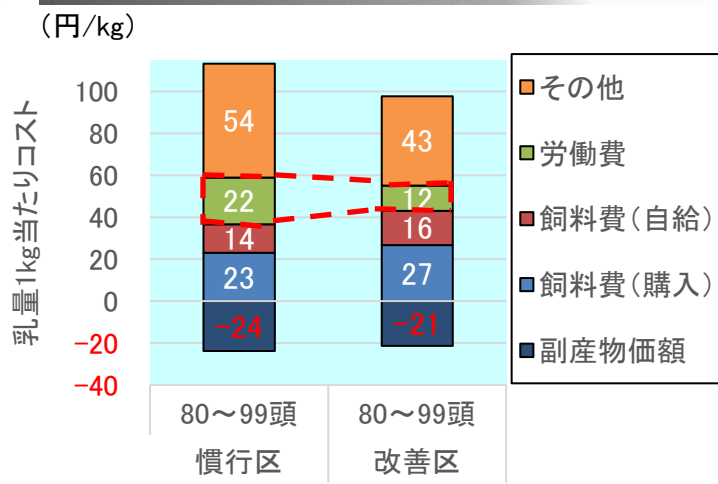
成果

1 労働生産性向上のポイント

	慣行区	改善区
飼養方式	繋ぎ	フリーストール※
放牧形態	小牧区 (1日/牧区)	中牧区 (2~3日/牧区)
飼養頭数	60	80

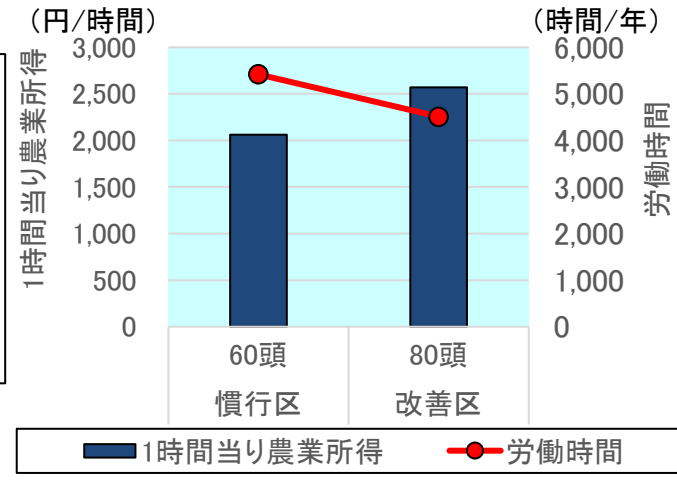
※牛が自由に歩き回れるスペースを持つ牛舎の形態で、搾乳等を省力化できる

2 コスト低減効果を確認



同規模の調査値の比較

3 所得増と労働時間削減を両立



実態値に基づく試算分析結果

期待される効果

フリーストールは搾乳の際に作業者の移動が少なくすむので、頭数が増えても労働時間は短くなり、労働費を軽減できる。

家族労働を中心とする放牧経営がフリーストール飼養方式を導入する際の判断に活用する。